

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2774002857
法人名	株式会社 ビケンテクノ
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号
自己評価作成日	平成 23年 3月 31日
評価結果市町村受理日	平成 23年 8月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774002857&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 5月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホーム(家)は駅や公園が近くにあり、ゆとりのある運営を行っています。ひとり一人の生活スタイルを尊重し、「心豊かに、支え合う場」として、穏やかで安心した暮らしを築いています。①手厚い人員配置(個別対応を重視)
②日々、職員、御入居者が笑顔が絶えない日々の生活
③毎朝屋外にてラジオ体操の実施 及び 午後より屋内にて元気アップ体操を実施
④日々の食事、行事

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

メルシー緑が丘グループホームは駅から近く、交通に便利な立地条件があり、4階建ての建物の3・4階部分がグループホームとなっています。現在は、ショートステイの事業は休止していますが、そのフロアを利用して、クラブ活動など皆の交流の場として活用しています。職員間で作り上げた理念である「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共に支え合い共感する。」「ありがとうと言い合える日々の暮らし」「地域の中で自分らしく過ごせる我が家」を常に意識しながら、利用者の意向や希望にできるだけ添えるように個別支援に力を入れ取り組んでいます。公共機関を利用した外出支援や馴染みの場所への継続支援なども行っています。利用者も自分のできる能力に応じ役割分担があり、生き生きとした張りのある、笑いの絶えない暮らしを送っています。地域行事や地域で行われているサロンにも積極的に参加し、地域の方との交流の機会は以前よりも多くなっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に掲示し、毎日全体申し送り時に、全員で唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で共に支え合い共感する。」「ありがとうと言合える日々の暮らし」「地域の中で自分らしく過ごせる我が家」の3つの理念を柱に、利用者の目線に立ち、利用者と共感し、感謝の気持ちを大切に日々のケアに取り組んでいます。理念は毎日昼礼で唱和し、職員同士が共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝、公園でラジオ体操を地域の方たちも参加され一緒に行い、また散歩で挨拶を交わすなど、ふれあう機会も多く、日常的に交流している。	毎朝近くの公園で行われている、ラジオ体操に参加し、地域の方と顔なじみの関係ができています。そのことをきっかけに、子どもたちがハロウィンでホームを訪れたり、ドッグセラピーの方を紹介してもらい定期訪問があったりと、昨年より地域の方と交流する機会が増えています。また、月に4回、地域のふれあいサロンに参加したり、敬老の集いや運動会に参加したりしています。また、地域の方から、地域の行事予定表を届けてもらっています。その他に、折り紙、習字、お茶など、地域のボランティアの訪問もあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	公園や近隣の店舗、公共施設等、人々の対話交流を通し、日常的に自然に共有する事で地域の人々の理解や、支援を活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催のなかで、取り組み状況報告や、話し合い等、意見・助言をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族、市の担当職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、ホーム職員を構成メンバーとして、ホームでの日々の状況や活動報告を行っています。また会議での意見、助言などは、サービスの向上に活かしています。今のところ、会議は年2回程度の実施となっています。	運営推進会議の開催予定日をあらかじめ計画し、2ヵ月に1回の開催を目標に取り組んでいくことが求められます。議題などの設定も柔軟に検討し、参加者から率直な意見を得て、また地域の理解と支援を得るための機会の場として、活用してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との情報交換、有効な場として位置づけ、必要な手続き等相談し、指導を受けている。	市の担当者とは、常に何かあれば相談などを行っています。苦情などの相談にも、共に検討し、助言などももらっています。事故報告なども迅速に報告し、対応しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、精神的拘束は一切行っていない。フロア入り口ドアのテンキーを解除し、各フロアを自由に行き来できるようにしている。 一階玄関の鍵に関しては、安全面を考慮し施錠している。開放感のある工夫や、希望時に外出が出来るような人員体制を整えている。	ホームの玄関、エレベーターには施錠はしておらず、他のフロアには自由に行き来ができ開放的です。しかし、1階入り口は施錠しており、ホームの外へは一人で行くことができない状況です。職員は、利用者の自由な暮らしを支援するため、毎日のようにホーム外へ散歩に出かける等、個別支援に取り組んでいます。	個別支援を増やし、利用者の自由な生活を支援しています。しかし、1階の施錠については、家族の要望や、安全のための施錠になっていないかなど、繰り返し話し合っているでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や防止マニュアルを熟知し、相手の立場に立った視点での虐待の理解を深め、日々の対話・対応のなかで自己判断のみとならないよう、努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内管理者研修で学び、地域ネットワーク会議に参加し、講義を受けている。必要な人には活用できるよう支援していきたい。今後も職員ひとり一人、研修等参加し、積極的に取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し納得した上で契約を交わしている。解約時は納得して頂けるよう医療、福祉機関等、連携し、退居の為に必要な支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のなかで、入居者個々が不満や思い等、引き出せるよう個別でゆっくり関わる時間を作っている。家族会や面会時、また、カンファレンス等家族に参加して頂き、気軽に、意見や要望を聞かせて頂き、運営に反映させている。	家族の訪問時に話しやすい雰囲気作りに配慮し、できるだけ多く話す機会を設けています。年に1回、家族アンケート調査を実施し、意見を聞き、ケアに反映しています。家族交流会、家族会を実施し、行事や食事などを一緒にしながら、意見や要望を聞く機会を設けるなどしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、カンファレンス等に、職員の意見等、聞く機会を設け、意見を共有し、サービスの質の向上に努めている。	月1回の全体会議、フロアミーティングでは、積極的な意見交換があり、利用者のケアの質の向上につなげています。管理者は職員面談を年1回は実施し、管理者自身も夜勤に入り、職員の心身の状況などをできるだけ把握するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実力、勤務状況を把握し、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き、社内研修を開催している。また外部研修にも参加し、研修発表会を設け、全員が共有出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、地域ネットワークへ参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境、ゆったりとした時間をつくり傾聴し、職員との信頼関係を築き上げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や、家族交流会等、相談、意見、要望等、聞かせて頂き、対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様より、情報を収集し、必要とすることを見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご入居者の黒子となり、出来ないところを支援し、娘、嫁、孫の立場で家族の一員として、支え合いながら、生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで生活状況を常に報告し、又カンファレンスに参加して頂き、意見、要望を伺い、協力頂きながら共に支え合い、より良い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた生活、背景等、十分に理解し、より良い関係づくりが保てるよう支援している。	行きつけの美容院や、デパート、手芸品店、お墓参りにも個別対応を行い、できるだけ利用者の希望や要望を聞き、今までの関係性の継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共に支え合い、又、関わりが持てない方には、職員が橋渡し、より良い関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院や亡くなられた方には、お見舞いや、葬儀に参列したり、又家族様からお手紙をいただいたり、当グループホームを紹介頂くこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の時間をつくり、思いを聴き、意向に添えるよう努め、又、意思疎通の困難な方も、行動や表情を見逃すことなく、ひとり一人ゆっくり関わる時間を持てるよう努めている。	利用者一人ひとりとゆっくり関わる時間を持ち、利用者の意向を聞くなどしながら、思いの把握に努めています。「気づき・問題点」などがあれば「気づきノート」に記載し、その内容をカンファレンスなどで話し合い、共有認識を持ちケアに活かしています。ろうあの利用者には、手話通訳のボランティアの協力を得て、意向の把握に努めています。また、方言がある利用者には、職員が出身地の言葉を学習し、信頼関係を築き、思いを理解するよう努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人からの情報を収集し、センター方式を活用しながら、自分らしい生活が送れるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察し、個人日誌、個人経過表に記録し、申し送りにて、個々職員が把握するよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、利用者の気づきがあれば、気づきノートに記録し、カンファレンスで話し合い、家族様にも参加して頂き、又参加できない家族様には、事前に意見・要望を伺い、現状に即したケアプランを作成している。	介護計画の見直しは3ヵ月に1度行っています。作成時には、関係者とカンファレンスを行い、また、家族からも意見や意向を聞き、介護計画に反映しています。職員は常に、介護計画を意識したケアに取り組み、その目標に対しての評価をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や経過表で情報を共有し、ケアプランの評価を日々行い、小さな気づきも気づきノートに記載し、変化が生じた場合は、随時カンファレンスを行い、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型認知症対応型通所介護（平成20年9月1日開設） デイ利用者との交流		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動（ふれあいサロン、敬老会）への参加や、保育園児との交流、図書館の利用等、豊かな暮らしが出来るよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医との24時間連携、月2回の往診での医療管理。入居以前からのかかりつけ医に受診されている方もおられる。家族の希望に応じて対応できる事の説明もしている。	利用者には入居時に主治医の意向を確認しています。現在は、ホームの提携医が主治医となり、月2回の往診により利用者の健康管理を行っています。緊急時、夜間など携帯電話がつながり、24時間の対応が可能です。他に、専門医への受診支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が従事しており、適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と入・退院時の利用者様に関する情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、入居当初に終末期のあり方や、本人、家族の要望等、伺っている。主治医、家族様、職員間で話し合い、「できること、出来ないこと」を見極め方針を共有し、支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期についての説明を行い、ホームとしての方針を、主治医、家族、関係者と共有しています。今後もできる限り、意向に添い、看取りをしていくことを検討しています。管理者は、看取りについての研修にも参加して知識を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し、又、諸注意及びチェック表に基づき全ての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を消防隊員の協力得て、利用者参加のもと実施している。	年2回消防署の協力のもと、夜間想定も含め、消防訓練を実施しています。水や食料など、災害時の備蓄も用意しています。消火器も使いやすい場所に設置しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を尊重し、尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。記録は鍵の掛かるロッカーにて管理している。	職員の入社時には秘密保持に関する誓約書を取り、周知徹底しています。利用者には丁寧な言葉がけで接し、プライバシーを損なうことなく、一人ひとりを尊重した関わりをしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望が言えるような環境づくりを大事にし、個々に合った対応と自己決定が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、ペースを大切にしながらも、日々メリハリのある生活を送って頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の希望に合わせ理美容の利用を支援し、外出時には、お化粧をし、洋服を選び、楽しんで頂けるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁づくり、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、楽しみと自信に繋がるよう支援している。	調理スタッフが中心となり、利用者の好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れています。野菜などは利用者と一緒に買い出しに行っています。利用者にもできる範囲での役割分担があり、調理の手伝いや配膳、食器洗いなどを積極的に生き生きとしています。月1回の行事食も利用者の楽しみの1つとなっています。食事、水分量はその都度チェックし、体調管理の把握に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録し、必要量を摂取出来るよう、声かけや、好みの飲み物を提供する等、工夫している。また食事の摂取量を記録し、健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。 週一回義歯洗浄機使用し、また、往診歯科医の所見にて指示を頂き支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を把握し、プライバシーを損ねないよう、声かけに配慮し、気持ち良く排泄が出来るよう支援している。	排泄状況を把握するため、個人個人にあった排泄チェック表を作成しています。そのチェック表を利用し、排泄誘導など、職員間の連携もあり、リハビリパンツから布パンツに変更になった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と、水分摂取量の把握、適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や、時間はおおよそ決めているが本人の体調や、希望も伺いながら入浴して頂いている。	入浴は基本的には週3回ですが、毎日入浴している利用者もいます。身体状況に合わせ、シャワー浴を行うこともあります。ゆず風呂や入浴剤で気分転換を図り、楽しく入浴できる工夫をしています。リフト浴がないため、利用者の重度化に伴い、今後どのようにしていくかが課題となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣、就寝時間と必要時、就寝時間の調整をしながら、休息、安眠の確保を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を確認し、誤薬の無いよう、与薬時は日付、名前を読み上げ又、副作用に注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされることを見出し、それを役割とし、無理強いすることなく、自信と楽しみとなるよう、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動参加等、積極的にいき、個々で事前に希望を伺いゆつくりと出かけられるよう個別に外出を計画し、実行している。	「一日1回は外に出よう」を職員間で話し合い、日常的にホームの周りを散歩したり、近くのスーパーに買い物に出かけたりしています。また個別支援で、地下鉄を利用し、公園やカラオケにも行っています。入居前から自宅付近を清掃していた利用者は、今もホームの周辺や公園へ掃除に出かけ、生活の一部となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自己管理が出来る方には所持していただき、又、小口(3千円程度)を預かり管理し、必要時お財布をお渡し使っていただけるよう支援している。 毎月出納帳をコピーし、レシートを添付して家族様には郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される際、都度対応し、家族、友人へ手紙のやり取りが楽しみとなるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないよう配慮し、季節を感じていただく為の装飾、リビングにソファを置き、ゆったりと落ち着いた雰囲気づくりに工夫している。	1階玄関フロアは広くゆっくりとしており、クラブ行事に多くの参加希望者が集まれるように工夫され、ユニット間の利用者同士の交流の場となっています。共有スペースには、ゆったりとくつろげるソファがあり、それぞれが思い思いに過ごすことができます。各居室のドアの色を変え、部屋のメリハリをつけて分かりやすくしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々ご入居者が落ち着く場として、廊下にベンチや椅子を置く等、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等お持ちの方もあれば、入居時に新しく購入された方もおられるが、環境にも慣れ居心地よく過ごされている。	ホームの備え付け以外は、持ち込みは自由で、使い慣れたタンス、冷蔵庫、マッサージチェアを置いています。好みの新聞をとって居室でゆっくりと過ごしている利用者もいます。針仕事好きな利用者は、アイロンを持ち込み、作業がしやすく、自分なりに工夫した居室作りをしています。夜間にポータブルトイレを使用している利用者がいますが、日中はポータブルトイレにカバーをするなどの配慮をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場など、移動に必要な場所には手すりをつけ、表示する等、安全に配慮し、自立した生活が送れるよう工夫している。		